

第10回中国国際園林博覧会

大分市武漢事務所 趙 南星

中国国際園林博覧会（以下、園博会）は1997年から2年に1度各地で開催される展示内容、規模共に最高レベルのガーデン博覧会であり、今回の武漢市で10回目を迎えます。

園博会は中華人民共和国住宅都市農村建設部と地方人民政府が共同で開催するものであり、これまで大連市や上海市、済南市など計9都市で開催されてきました。今回、武漢市で開催される第10回園博会は9月25日から来年の4月まで「張公堤城市森林公園」で開催されています。

今回の園博会は「生態園博・緑の生活」をテーマに、これまで廃棄物処理場として使用されていた「金口ゴミ処理場」を埋め立てて作られました。園内の構成としては、都市庭園82箇所、庭師庭園（有名なデザイナーが設計した庭園）4箇所、国際庭園（世界各国をイメージした庭園）10箇所、テーマ庭園4箇所、市民庭園6箇所、湖北庭園（湖北省の自然的特色を表現した庭園）1箇所など、117の庭園と、「園林芸術園」「長江文明館」「漢口里」「漢江嘴」という4つの施設が設置され、来場者を楽しませています。とりわけ、都市庭園では北部園芸や江南園芸、嶺南園芸や巴蜀園芸など中国各地域の特色を表現した庭園を鑑賞することが出来るとともに、国際庭園内の日本庭園では、大分市から寄贈された11本の山茶花がきれいな花を咲かせている姿を見ることが出来ます。

今回は本園博会で注目を浴びている2つの施設についてご紹介いたします。

長江文明館

今回の園博会のメインパビリオンである「長江文明館」は白鳥をイメージして造られた建物で、長江流域におけるこれまでの文化の歴史を辿ることができます。館内では、「各拉丹東」を源流とする長江の流れに沿って、文明発展の歴史を体験することが出来る映像が上映されています。この映像では、高い雪山や連なる四川省の山々、三峡ダム、三国志で有名な赤壁、武漢市の黄鶴楼など、長江南岸の雄大な景色をリアルに体験することができます。7つのコースが用意されていますが、すべてのコースにおいてモーションシアターチェアに乗ることにより、これまでの3D映像に加え、上昇・下降や左右の振動を体感する4D体験ができます。

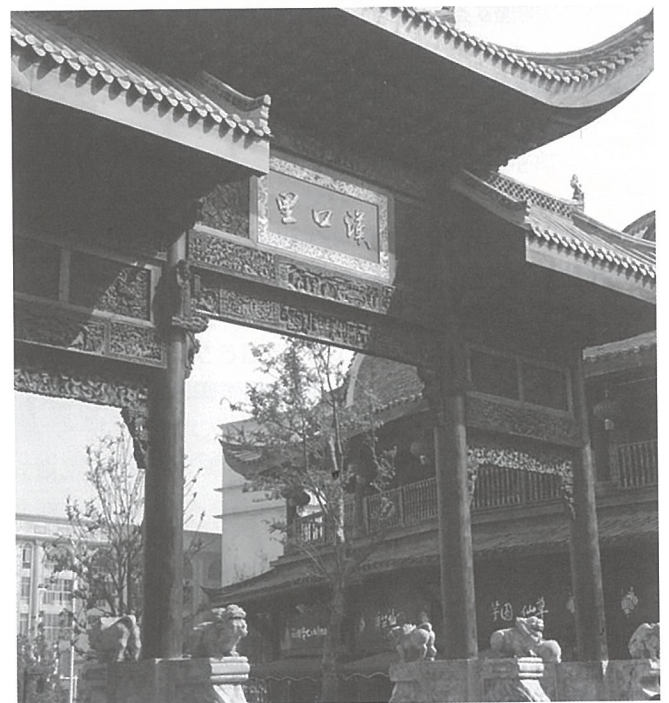


長江文明館の様子

映像の制作にあたり、武漢園林博覧会執行委員会（以下、委員会）では「アバター」の視覚効果を担当した映画スタッフを招き、長江の川沿い各所に撮影スポットを設け、1年をかけて完成させたところです。「長江文明館」で鑑賞できるこれらの映像が園博会における最大の見どころといっても過言ではありません。

漢口里

委員会は園博会を訪れる観光客に向け、商業スポット「漢口里」を設けました。漢口里は会場東部に位置し、敷地面積66,800㎡、16棟の建物により構成されています。1861年に漢口は開港しましたが、これら16棟の建物はその後100年間に建てられた建築物をモチーフに建てられています。漢口里には武漢市の老舗飲食店や伝統食品、手作り工芸品や民族工芸品を販売する店舗が入っており、来場者を楽しませています。なお、委員会は園博会終了後、漢口里を地下鉄7号線と連結させることを予定しており、市民のレジャー施設となることが期待されています。



漢口里入口

開催期間中は、中国だけでなく世界各国から非常に多くの来場者があり、これまでの園博会においても経済効果だけでなく、環境意識の醸成やより良い景観形成について、人々に大きな影響を与えてきました。今回は「長江文明館」と「漢口里」をご紹介いたしましたが、園博会にはこれら以外にも多くの見どころがありますので、皆様のお越しをお待ちしております。